

6 節 マスチック塗材塗り仕上げ外壁等の改修

4. 6. 1 一般事項

この節は、コンクリート面、押出成形セメント板面、モルタル面及びALCパネル面へのマスチック塗材塗りに適用する。

4. 6. 2 材料及び工法

- (1) 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整は、4.5.4による。
- (2) マスチック塗材塗りは、表4.6.1による。

表4. 6. 1 マスチック塗材塗り

工 程		塗 材 そ の 他	塗付け量 (kg/m ²)
下地調整		7.2.5 [モルタル面及びせっこうプラスター面の下地調整] 又は 7.2.6 [コンクリート面、ALCパネル面及び押出成形セメント板面の下地調整]による。	—
1	下地押さえ	合成樹脂エマルションシーラー	0.12
2	塗材塗り	マスチック塗材A	1.20

(注) 1. 下地調整の種別は、塗材その他の欄による。

2. 押出成形セメント板面の下地調整は、表7.2.6[コンクリート面及び押出成形セメント板面の下地調整]によるRB種とする。
3. 新規に行う場合は、下地調整に代えて、素地ごしらえを7.3.5又は7.3.6により行う。ただし、押出成形セメント板面の場合は、表7.3.6[コンクリート面及び押出成形セメント板面の素地ごしらえ]によるB種とする。
- (3) マスチック塗材は、マスチック塗材の製造所において調合されたものとする。
- (4) マスチック塗材は、施工に先立ち、かくはん機を用いてかくはんする。
- (5) 塗付けは、多孔質のハンドローラーを用いて下地にくばり塗りを行った後、均し塗りを行い、次にローラー転圧によりパターン付けをして、一段塗りで仕上げる。
- (6) 塗継ぎ幅は、800mm程度とし、塗継ぎ部が目立たないように、むらなく仕上げる。
- (7) パターンの不ぞろいは、追掛塗りをし、むら直しを行って調整する。
- (8) 部分改修工法は、(2)から(7)までにより、既存部分との模様を合わせるように施工する。